

	筑波大学 人文科学分野
学部等の教育研究 組織の名称	人文・文化学群（第1年次：240名） 人文社会科学研究科（M：86名 D：75名）
沿 革	<p>明治35（1902）年 東京高等師範学校 設置</p> <p>昭和4（1929）年 東京文理科大学 設置</p> <p>昭和12（1937）年 東京農業教育専門学校 設置</p> <p>昭和19（1944）年 東京体育専門学校 設置</p> <p>昭和24（1949）年 東京教育大学文学部 設置</p> <p>昭和48（1973）年 筑波大学第一学群（人文学類）設置</p> <p>昭和50（1975）年 第二学群（比較文化学類）、地域研究研究科、哲学・思想研究科、歴史・人類学研究科、文芸・言語研究科、社会科学研究科 設置</p> <p>昭和60（1985）年 第二学群（日本語・日本文化学類）設置</p> <p>平成4（1992）年 国際政治経済学研究科 設置</p> <p>平成13（2001）年 哲学・思想研究科、歴史・人類学研究科、文芸・言語研究科、社会科学研究科及び国際政治経済学研究科を廃止し、人文社会科学研究科を設置</p> <p>平成19（2007）年 人文学類、比較文化学類および日本語・日本文化学類を改組し、人文・文化学群を設置</p> <p>平成20（2008）年 地域研究研究科を廃止し、人文社会科学研究科を設置</p>
設置目的等	<p>昭和48（1973）年に、人文、社会及び自然の各基礎的分野に関する教育を総合的に行うことを目的として、第一学群が設置された。</p> <p>昭和50（1975）年に、比較文化、人間、生物及び農林の各分野に関する教育を総合的に行うことを目的として、第二学群が設置された。また、同年に、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的として、地域研究研究科（修士課程）が設置され、専攻分野について研究者として研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的として、哲学・思想研究科（博士課程）、歴史・人類学研究科（博士課程）、文芸・言語研究科（博士課程）、社会科学研究科（博士課程）が設置された。</p> <p>平成4（1992）年に、国際政治と国際経済との相互関係を充分理解できる国際関係及び国際開発分野の研究者・教育者と、それぞれの分野において専門的知識をいかし、政府機関、民間組織、国際機関などで積極的に実務に携われる人材を養成することを目的として、国際政治経済学研究科（博</p>

士課程)が設置された。

平成13(2001)年に、哲学・思想研究科、歴史・人類学研究科、文芸・言語研究科、社会科学研究科及び国際政治経済学研究科を廃止し、人文科学・社会科学を統合して、両分野を広域的に高度融合させた新専攻を創出するとともに、基礎研究を充実・深化させることによって、より高度な教育・研究を実践し、新しい社会的・学問的要請に応え得る広い視野・優れた独創性・高度な研究能力を持った研究者、高い専門性・優れた国際的実務能力を有する高度専門職業人の育成を図ることを目的として、人文社会科学研究科(博士課程)が設置された。

平成19(2007)年に、第一学群(人文学類)及び第二学群(比較文化学類、日本語・日本文化学類)を改組し、人文系と文化系の学問の豊かな知見と確かな成果を基に、さらにはグローバル化する世界も視野に入れながら、多様で質の高い教育の実現と、優れたコミュニケーション能力を持ち、先見性・創造性・独創性に富み、国際的にも活躍できる、卓越した人材の育成を目標として、人文・文化学群を設置した。

強みや特色、  
社会的な役割

**【総論】**

筑波大学における人文科学分野においては、真理の探究を図るとともに、我が国における普遍的役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。

引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強みや特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。

**【教育】**

(学部)

- 人文・文化の学問分野の教育研究を通じて、人文系の豊かな知見をもとに、コミュニケーション能力と人に対する豊かな洞察力をもち、自国文化に関する深い知識とグローバルな視点を備えた、国際的にも活躍できる人材を養成する。
- このため、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ体系的な教育課程を編成し、グローバルな視点を養成するためのグローバル科目の設定やGPA制度の導入、幅広い教養を身につけるためのコア・カリキュラムの提供等を実施している。
- 今後は、学生の視点に立った教育プログラムや社会のニーズに合った学位プログラムを構築し、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等をさらに整備すること、また、これらの取組の実施だけではなく、可視化した資質や能力に応じた取組の成果や効果等を適切に把握していくことにより、学士課程教育の質的転換に取り組む。

(大学院)

- 人文科学分野における人間存在の深い理解とその営為の考察を目的として、専門領域に対応した基盤的教育を通じて研究者としての基礎的能

力を育成するとともに、学問の新たな展開に応じて、深い洞察力と分析力、多面的横断的な視点をもって関連領域をも拓きうる独創的な構想力を身につけた研究者・高度専門職業人を養成する。

- このため、専門の枠を超えて新領域の開拓を促す異分野融合型教育プログラムを開設するとともに、国際化への対応として、海外の学術協定校を通じた交換留学や短期派遣プログラム、公募型教育プログラムを積極的に活用して、国際会議での発表を促進するなど、世界に通用する人材を育成している。
- 今後は、新たな組織再編により学際分野の更なる拡充を進め、社会人、留学生を含め、時代の動向や社会構造の変化に的確にこたえ、課程制大学院の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化する。

#### 【研究】

- 人文科学分野における高い研究実績をいかし、古代西アジア文明研究や日本語日本文化発信研究など総合的な研究を組織的に推進する。
- これらの取組を通じて、欧州の研究機関に若手研究者を派遣するなど国際的な研究ネットワーク形成を促進している。
- 今後は、研究ネットワークの拡充を図り、地球規模の課題に立ち向かう新たなグローバル研究を提案するなど、我が国の社会の課題解決・文化の発展をけん引する。

#### 【その他】

- 全学的な機能強化を図る観点から、18歳人口の動態や社会ニーズを踏まえつつ、学部・大学院の教育課程及び組織のあり方、規模等の見直しに取り組む。